

女性語の「~のだ」

チラニン シャニンタラソクラー

「~のだ」の使い方は日本語を学習している外国人にとって一つの難しい点だと思う。なぜかという、いつどのような場合に使えるかがはっきり分からないからだ。英語ではこの「~のだ」が使われていないと思われる。女性語の中で文末に「~の」や「~のよ」や「~んだ」や「~んだね」などがついているのをよく見かける。同時にたまにはこれらの「~のだ」が付いていない場合もある。「~のだ」あるいは「~んだ」はいつどういように使われているのだろう。これから女性語の「~のだ」あるいは「~んだ」の使い方を考える。

「~のだ」の用法

まずaとbの間の意味的な関係に基づいて、「~のだ」の用法を分類することができる。

1 bがaの原因や理由である場合の用法が挙げられる。これが「~のだ」の表す基本的な意味であるかのように言われることがある。

花が枯れてしまいました。水をやるのを忘れたんです。

先生「Aさん、昨日はどうして休んだんですか。」

A:「すみません、頭が痛かったんです。」

風邪引いたみたい。熱があるんです。

2 bがaを言い換えたり、べつの角度から述べたり、要約したりするものであることも多い。

気持ちで感謝すれば形はどうでもよいというのは暴言です。形が人の心を養うのです。養われた心から形が生まれてくるのです。

文脈の内容を受けて、「言い換えると~」「つまり~」「要するに~」といった気持ちで解説や要約を提出するわけである。このことから、特に書き言葉の場合、「~のだ」は意味の縮めくくりとなる部分において多く用いられる。

3 (状況)->「~んだ」の形で話し手がある事実気づいたり、ある事柄を納得したりする。

あっ、財布がない。電車の中ですられたんだ。

(桜のつばみが膨らんでいるのを見て)「ああ、もう春なんですね」

(2)

(テーブルの上のご馳走を見て)「あっ、今日はお父さんの誕生日なんだ」

しまった、あすまでに報告書を書くように言われてたんだ。

4 「~のだ」の説明の用法なるものは、「~のだ」が基本的に背後の事情を表すものであることの結果とし実現する効果の一つと見るのが適当だと思われる。相手の誘いや勧めに対して、話し手が断りの理由を説明する場合も「~のだ」が使われている。

(母親に買い物を頼まれて)「今勉強しているんだ。」(断り)

(「さしみはいかがですか。」に対する)「すみません。魚は嫌いなんです。」(断り)

「熱心に勉強しますね。」「あしたテストがあるんです。」(説明)

今日は休みます。体調が悪いんです。(説明)

(遅刻してきて)電車が遅れたんです。(説明)

5 話のきっかけをつかむ。話し手が相手の何か(ある状況)に注目して、興味・関心を向けた場合や、驚き・不審等の感情を抱いた時に背後を問う。

何を読んでいるんですか。

(家のまえでしゃがんでいる怪しい男に向かって)「そこで何をしていますんですか。」

(うずくまっている人に)「どうしたんですか。」

(イライラした顔をしている人に)「何に怒っているんですか。」

6 依頼や助言を求める。勧誘、要求。

「通帳を作りたいんですが、……」(依頼)

「Bさん、明日僕の家でクリスマス・パーティするんですが、来ませんか。」(勧誘)

子供「お父さんお金を少し貸して下さい。本が買いたいんです。」(要求)

7 本来結び付けられるaの存在が想定され、これから本当に伝えたいことが続いていくことを案示する効果がある。

A「Bさん私昨日有名人に会ったんです。」

B「へえ、だれですか。」

A「ともさかりえです。」

8 子供などに対する穏やかな命令。

「知らない人についていくんじゃありませんよ。」

早くこっちに来るんだ。

そのいぬに気を付けるんですよ。

9 実状の強調、判断の主張をする。

(「このごろどうですか。」に対する)「とても忙しいんです。」

「~のだ」が用いられない場合

1 相手に対して一方的に報告したり通知したりするような形で表現する時には、次に見るように「~のだ」は用いられない。(新聞のニュース記事)

本日、未明西条町で火事が(あった、?あったん)です。

お知らせします。あす2時からパーティーが(行われます、?行われるんです)。

NEXTSTEPならではの機能を活かして、電子メールやほかのアプリケーショングラフィックを含む情報をコピーやペーストが(できます/?できるんです)。

2 話し手の内面において生じたばかりの事柄を表現する時にも「~のだ」は用いられない。

ああ、(疲れた、?疲れたんだ)なあ。

(自己紹介で)「私は~といます。大阪大学の学生(です/?なんです)。」

「今何時ですか。」「3時(です/?なんです)。」

3 話し手の意志を、その意志の決定の時点におやいて表明する場合、話し手の内面において生じたばかりのことがらを表現する時にも「~のだ」は用いられない。何か別の事柄の背後の事情であるはずはないからだ。

私も(行きます/?行くんです)。

(レストランで)それじゃ、私これに(します/?するんです)。

ああ、(疲れた/?疲れたんだ)なあ。(内面において生じたばかりの事柄)

突然的に生じた事態や事柄を言う場合にも

しまった、ノートを(忘れた/?忘れたんだ)。

(リュックに手を入れて)たばこ あ!(ない/?ないんだ)。

注意: ?=用いられない

**タイ語の中も日本語のように「~のだ」が使われている。

タイ語の疑問文で使われている「mai」と「ruu」の使い方は日本語の「~のだ」の使い方で説明できる。

Q:paimai? = Q:行く?

Q:pairuu? = Q:行くの?

「paimai」の場合は聞き手は相手に聞いて、答えが「はい」と「いいえ」二つあると思われる。しかし、「pairuu」の場合は聞き手は相手の全体の状況を見て、そうだろうと判断して聞く。

(4)

そういうわけで、聞き手は相手の答えが「はい」一つしかなく、それからその答えの説明が追伸する。

Q:paimai? = Q:行く?

A:pai/maipai = A:ええ、行く/いいえ、行かない。

Q:pairuu?

A:pai,.....(説明)

タイ語の肯定文の文末の場合の「~na」は日本語の肯定文の「~のだ」と同じ意味があると思われる。「~のだ」はその文の理由の説明を示す。

Q:tammai muuwaan = Q:どうして昨日はパーティーに来なかったの?

maimaa ngaanliang ruu?

A:muuwaan pen wat na. = A:昨日風邪をひいたの。

会話文(例)

T:3人で大丈夫?3人の会話でいい?

J1: 3人の会話でも大丈夫。うん。

J1:なんかね ほかのところね4人でやっているところもあるみたいよ。外国人一人に日本人3人。

J2: ああ 本当

T:不公平だよ。 3対1 ひどい。

J1: 不公平!!えへへ ウフフ

J2: あーそうか そうか

T: うん へええそうなん。

J1:でもねTさんねなんかね外国人と話しているね感じがしないよ。

T: うれしい ホホホ

J1:なんかみかけも日本人だし。

J2: えっっどうして知りあったの。

T:どうやってって...

J1:ああ どうしてかな。最初はRちゃんがチューターやっているんよ。Tさんのそれで

J2: ああ そうなん どっちのRちゃん。

T: あっつ佐藤。 うん、仲良くって

J 1: 佐藤Rちゃんの方。 うん それで仲良くなったのかな。最初は

J 2: あっつ佐藤のRちゃん。ふううん。

T: 全然!信じないで!実はよくけんかしているのよ。

J 1: 実は仲良くいんだけど そうなのよ。うん。

(6)

T : 今お仮面なの。

J 1 : Tさんね 強ほうだからね。

T : 学年は一緒ですか。 3年新3年。

J 1 : あとはね・・・ 学年は一緒。 3年生が。 3年生になるね。今度

J 2 : うん新3年生。 なったね

T : 私も日本語教育、教育学科でしょう。入りたいの。 でも むずかしい・・・

J 1 : うん でも授
業けっこうとっている。

T : 私今研究生なの。 うん もういち

J 1 : そうなの。

J 2 : 研究生なの? えっ研究生が終わったらどっかに入るん?

T : 帰国して 今まだ卒業していないの。 うん

J 1 : もう1年で帰っちゃうんよ。

J 2 : 1年で卒業なの。

T : うん一学期残っています。 一学期うん 帰って卒業してからもう一度ここに来たくて

J 1 : 一学期 うん

T : でも 難しい。 うん 短期。

J 1 : Tさん Tさんは短期なのよ。うん 短期だから、一年しか日本にいられないの。

T : うん 帰らない 絶対帰らない。

J 1 : 去年の9月に来て今年の9月に帰えちゃうから だから。

J 2 : ても日本語が上手だよね。

T : まだだよ。
実は日系です。ホホホ

J 1 : 上手だよ。来た時から上手だった。もう うふふ

T : うそ。じょうだん。アハハ 私うそとじょうだんと本当ほんとうは分かりにくいよ。

J 1 : じょうだん言うからね。 そうもう。

T 1 : ホホホ これ実は録音できないよ。

J 1 : 分かりにくいよ。ほんと。今日もびっくりさせられたもん。なんか真剣な顔でねどうしようウォークマン忘れたって言うから。

J 2 : それもうそよね。

J 1 : もうなんだね。もう。 今のは分かるよね。

J 2 : 今のは分かったね。 そうか じゃ来年もう帰っちゃうんだ。

T : もう一度来たいけど、お金をください。 日本は高いよ。

J 2 : やっぱお金かかるんだよね。

注意： T=タイ人

J 1とJ 2=日本人の女の人

「~のだ」は日本語学習者により、難しい点の一つだそう。外国人にとって、だいたいよく間違いをすることが二つある。一つは「~のだ」を使わない場合で使い、もう一つは使うべきの場合で使わないことだ。韓国語も日本語のように「~のだ」が使われているが、もしかすると、違っているところもあるかもしれない。そういうわけで、韓国人の留学生が日本語を使う時、変わった文を作ったり、あるいは、使いすぎることがあると耳にする。一方、英語圏の留学生の場合は「~のだ」の使い方はちょっと難しいことだと思われる。なぜかという、前書どおり、英語は

(8)

「~のだ」がつかわれていないからだ。タイ語は日本語のように「~のだ」が使われているが、日本語の場合は使うが、タイ語はこの場合ならば、使わないという時もある。そういうわけで、タイ人の留学生もよくまちがいをする。

参考文献

寺村秀夫(1981)「上級文法教本」三友社

田野村忠温「現代日本語の文法Ⅰ「のだ」の意味と用法」和線選書

寺村秀夫(1984)「日本語のシンタクスと意味Ⅱ」くろしお出版

桜木紀子「外国人が日本語教師によくする100の質問」バベル・プレス

1994「新日本語の基礎Ⅱ教師用指導書」スリーエーネットワーク